

子どもたち一人ひとりがもっている力を 安心して発揮できる連携の在り方

～幼保での学びを生かす
授業を目指して～

矢向地区
ゆめいろ保育園
矢向小学校

推進テーマの設定理由

- 小学校に入学してきた子どもたち一人ひとりが本来もっている力を安心して発揮できるように効果的なスタートカリキュラムを更に充実させる。
- 園と小学校の担任同士がより連携をすることで、幼児・児童の育ちや学びの連続性をもたせる。
- スムーズな接続をし子どもも大人も安心して入学を迎えられる。

以上のことを目指して、研究推進を行う。

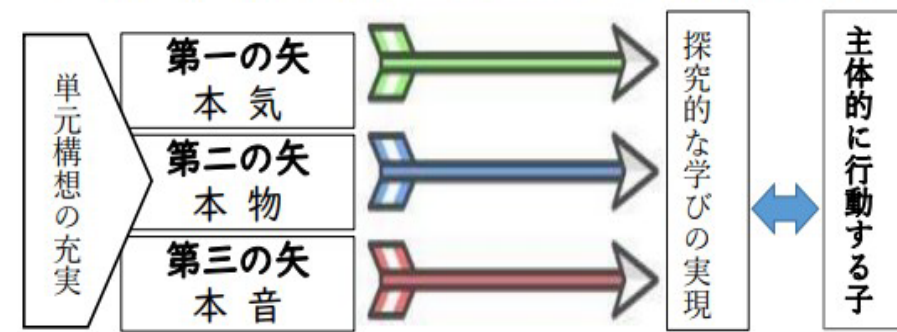
推進内容

- 年間通じた保育、授業参観の実施
- 園児と児童が直接触れ合える授業の展開
- 授業研究会(生活科)への参画

今年度の重点課題

- 今年度初年のため、まずは普段の保育や授業を参観する機会を設け、保育園や小学校の実態や雰囲気を知る。
- 教職員が交流することで目指す子どもの姿を共有する。
- 子ども同士の交流の場をもつ
- 三本の矢を引き出す授業構想を推進する。

～三本（本気、本物、本音）の矢を引き出す单元構想の充実～



連携事業の実際

- スタートカリキュラムの実施



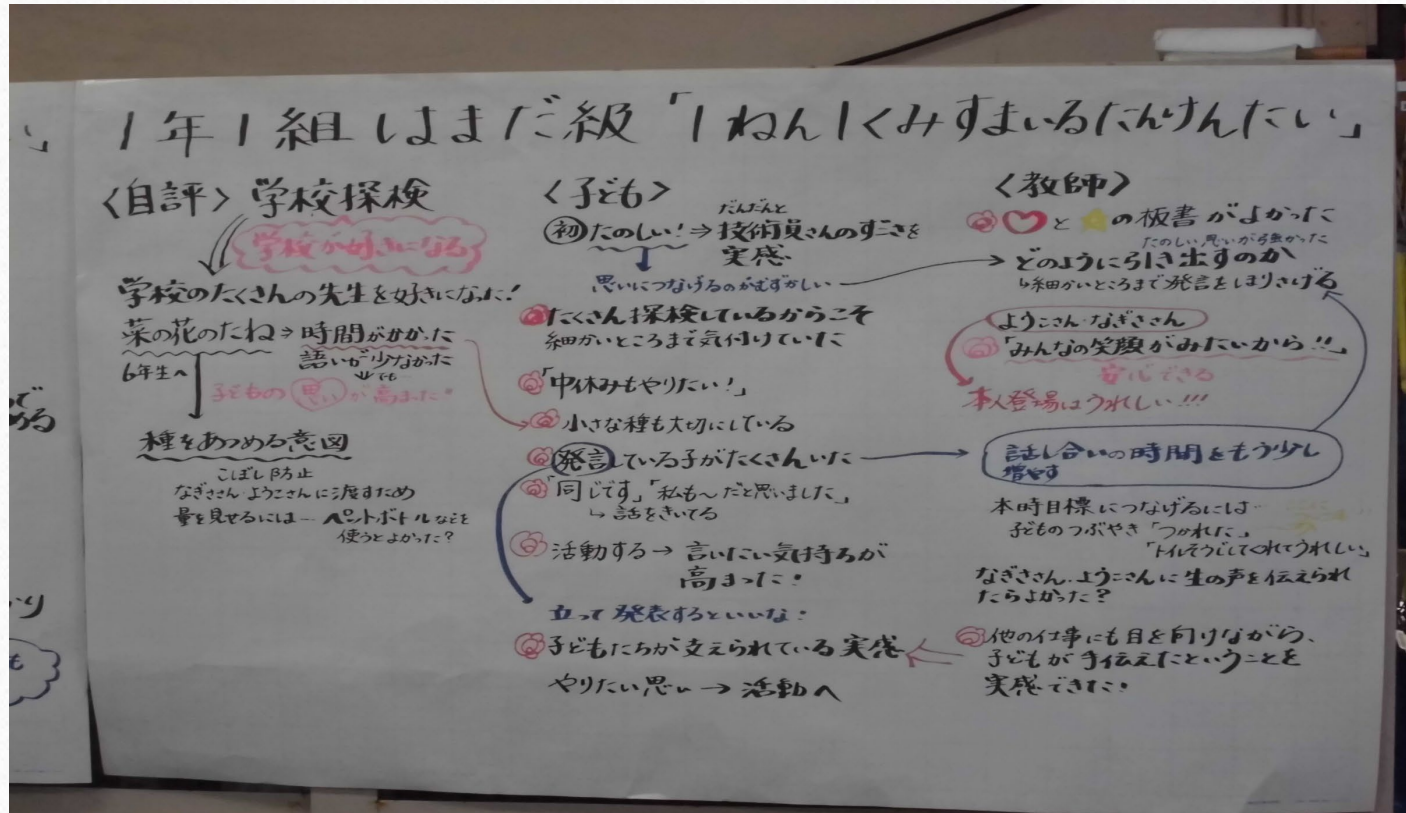
連携事業の実際

- スタートカリキュラムの実施



連携事業の実際

- 重点研究会への参観と協議会への参加



協議会で様々な意見を交換したのち、この日の重点研講師だった、にじいる保育園の園長先生から学びをつなげるとご指導をいただきました。

連携事業の実際

- 保育園児との交流



- 小さい子と遊んでみたいな。
- 小学校に来てほしいな。
- まだ小さいから勝負は負けてあげるんだ。
- ケガさせないようにしないとね。
- お土産を作っておこう。喜んでくれるといいな。

連携事業の実際

- 保育園児との交流



○生活科

「あきだいすき！ようこそ！かがやきのひろばへ」

◇保育園の子を招待して一緒に「かがやくあき」であそぼう

＜子どもたちのつぶやき＞

- ・自分たちよりも小さい子たちだから、言葉に気を付けたよ。
- ・自分たちよりも小さいけど僕たちより詳しくかたり出来ることもある。
- ・保育園の子も自分たちも両方楽しい。
- ・一生懸命に準備を頑張って良かった。

連携事業の実際

- 保育園児との交流



連携事業の実際

- ゆめいろ保育園参観



小学校教員が保育園の様子を参観し、子どもたちがどのように過ごしているか、知る機会となりました。

連携事業の実際

- ゆめいろ保育園の施設見学



実際に保育園に見学に行き、施設について、説明をしていただきました。どのような環境で育っているのか、理解を深めました。

成果と課題

- 小学校教員と保育士との交流
-

○成果

・入学した1年生を一からすべて教えていかなければいけないととらえるのではなく、保育園で年長として発揮していたリーダーシップなどの力を理解し、どのように声掛けをしていったらいいのか知ることができた。

○課題

・1年生の担当だけが知るのではなく、全学年で共有する必要がある。生活科の授業研の折など、幼保小の接続を意識した指導案にするなど改善していきたい。

成果と課題

- 児童と園児の交流

- 成果

- ・ 児童から進んで声をかけるなど積極的に行動する姿が見られた。
- ・ 園児から「小学校楽しい！1年生かっこいい！」と声掛けがあり、小学校へ安心して進学する様子が感じられた。

- 課題

- ・ 児童が振り返るときに自分の変容に気づきにくいので、支援が必要だった。園児一人に対し児童が多く配置されることがあり交流の質をもう少し高める必要があった。人数調整や取り組み内容を高めたい。